

各関係機関長 様

佐賀県農業技術防除センター所長

チャ炭疽病の防除の徹底について

茶園では炭疽病の発生が多く、秋期まで多発が続くと翌春の新芽の生育が抑制され、一番茶の品質低下や収量減少につながる恐れがあります。

つきましては、下記事項を参考に生産者への指導の徹底をお願いします。



写真1 炭疽病の罹病葉

記

1) 発生状況

(1) 定期調査(7月14日～18日調査)では、炭疽病の1㎡あたり平均発生葉数は16.0枚(平年4.4枚、前年10.0枚)であり、平年及び前年より多い。

表1 チャ炭疽病の発生状況(7月14～18日調査)

調査地点	A	B	C	D	E	F	G	平均	
								本年	平年
発生葉数(枚) ¹⁾	87	2	7	0	3	13	0	16.0	4.4

1) 発生葉数は4か所(1か所あたり0.25㎡)の合計値

2) 防除対策

- (1) 三番茶及び浅刈り後の萌芽～開葉初期に重点的に防除を行う。
- (2) 本病は、降雨により新芽に感染するため、降雨前の予防剤による防除を基本とし、降雨後は浸透性殺菌剤で防除を実施する。多発が予想される場合には、保護殺菌剤(開葉期)＋浸透性殺菌剤(2～3葉期)の体系防除を実施する。
- (3) 多発状態の続く茶園では剪枝により伝染源を除去する。
- (4) 本病に対する抵抗性は品種により差があるため、「やぶきた」、「おくみどり」など本病に弱い品種は特に注意する。(佐賀県施肥・病虫害防除・雑草防除のてびき〈水稻・大豆・果樹・茶〉p424参照)
- (5) 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統(佐賀県施肥・病虫害防除・雑草のてびき「作用機構による殺菌剤の分類」参照)の薬剤を連用しない。

表2 チャ炭疽病の主要な防除薬剤（各茶期の開葉初期に使用可能な薬剤を掲載）

FRAC コード	農薬名（有効成分名）	希釈倍数	散布量	本剤の 使用回数	摘採前日数
M5	ダコニール 1000 (TPN)	700～1000 倍	200～400L/10a	1 回	10 日前まで
M7	ベルコート水和剤 (イミノクタジンアルベシル酸塩)	1000 倍	200～400L/10a	2 回以内	7 日前まで
M7+M1	ベフドー水和剤 (イミノクタジン酢酸塩・塩基性塩化銅)	500～700 倍	200～400L/10a	2 回以内	7 日前まで
3	スコア顆粒水和剤 (ジフェノコナゾール)	2000 倍	200～400L/10a	2 回以内	7 日前まで
3	マネージ DF (イミベンコナゾール)	2000～4000 倍	200～400L/10a	2 回以内	14 日前まで
11	ストロビーフロアブル (クレソキシムメチル)	2000～3000 倍	200～400L/10a	3 回以内	10 日前まで
11	アミスター20 フロアブル (アゾキシストロビン)	2000 倍	100～400L/10a	3 回以内	14 日前まで
29	フロンサイド SC (フルアジナム)	2000 倍	200～400L/10a	1 回	14 日前まで
52	ミギワ 20 フロアブル (イブフルフェノキン)	2000～4000 倍	200～400L/10a	2 回以内	7 日前まで

表中の農薬登録情報は令和5年7月26日現在のものであるため、薬剤の使用にあたっては必ず最新の登録情報を確認する。

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病虫害防除部

〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088

TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085

Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp

ホームページアドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321899/index.html>

防除のてびき掲載アドレス <https://www.pref.saga.lg.jp/kiji00321928/index.html>

防除セ QR コード



てびき QR コード

